

勿凝学問 305

普天間問題に思う政治家の合理的無知、いや、ただの不誠実かな
でもまあ、この問題、民主主義を考える上で根が深いよ

2010年5月5日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

昨日5月4日に、首相がはじめて沖縄を訪ね、彼の言う「腹案」が、(たぶん)明らかにされた。

今朝、テレビをみていたら、司会者の小倉氏の次の発言があったので、一筆。

鳩山さんの発言を聞いていて、あれっと思ったのは、なんで沖縄に海兵隊の基地が必要であるのかということを生懸命考えれば考えるほど、やはり沖縄にある存在価値というのが分かってきたということをおっしゃってるじゃないですか。ということは、なんで沖縄に海兵隊の基地が必要なのかということをおんまり考えもしないで、県外に出そうと言っちゃってたということに聞こえるよっ。

・・・

憲法9条の問題を語ったりですよ、日本の防衛ということを考えて、日米安保のことを政治家だったら当然考えてるわけで、わかっているのが普通でしょう。

う〜ん、普通なのかなあ？

よく、投票者の合理的無知ということを使うけど、政治家も、合理的に行動したら公共政策について無知になると思う。

いつの頃からか、僕は、政治家に「権力闘争」という言葉を使ってあげることさえもったいなく思えて、彼らが日頃やっているのは、ただの「就職活動」と言うようになった。就職活動と言えば、ウソは付きものという事も、学生はすぐに理解してくれるし・・・。

彼ら政治家は、絶えず、次の選挙に向けて就職活動をしているわけで、その目的を達成するために、人間に与えられた1日24時間の使い方を合理的に配分すると仮定しよう。その時、彼らが政策を勉強する時間に、どれほどを費やすであろうか——投票者の合理的無知と同じロジックで、彼らの無知を容易に説明することはできる。

雑誌『選択』の今月号に、イギリスの政界の墮落を言う記事の中で、政治家の時間配分について触れている文章があった。

国会議員はますます選挙区にかかりきりになっており、議員の仕事時間の40%、閣

僚・閣外の仕事時間の25%を占めている。

僕は昔から、こういうデータがほしかったのだけど、日本の政治家については、まだみたことがない。日本の場合は、冠婚葬祭への出席はあるは、有権者に握手をして回ったり、お祭りに参加して一緒に踊ったりしなければならないから、もっと選挙区向けの活動時間は長いだろうと思っている。僕にとっては、本当にまれに、ほう、よく勉強しているねえという政治家がいたりすると、驚きを感じ、不思議さを感じる。でもまあ、彼らは往々にして、政治家になって選挙向けに時間を使わなければならない前に、基礎的な学習を終えている。賢くなるためには投票者にしろ政治家にしろ、勉強時間を費やさなければならない。それは、一日の長さにおいてもそうだし、一生の長さでもみてもそうなのである¹。ところが、現政権は、政権交代直後から専門知というものを徹底的に排除し、専門知を有する者達を粛清してきた——胸を張って、政治主導と言っていたが。

だいたいもって、投票者が選挙の際に、政治家を、専門的知識、見識の高さで選んでいるわけではないのだから、政治家自身は、勉強をしてなんの役に立つのやらとさえ思っているんじゃないのかな²。そのあたりを政治家はよく分かっているから、政党による候補者選びも、投票者の目線にあわせた政治とは関係のなさそうな世界での有名人が選定され、当選後の彼らは、「しっかりと勉強したいと思います！」というのが普通。なぜに、これから勉強しなければ何も分かっていないような人が国会議員の候補者になっているんだ？と言いたくもなるのだが、それどころか、彼らが当選した暁には、党本部からは、国会に出てきて勉強などしていないで、選挙区を回れと指示される始末。公共政策を勉強していない者達による政治主導？——冗談以外の何ものでもなく、それをもてはやすメディアって何ものだか（笑）。

候補者の専門的知識、見識の高さで選ばれているわけではない「衆愚選挙」で選ばれた人たちにこれほどの権力を持たせることの方が、どうかしているわけで、そのあたり、先の『選択』では、昨年のイギリスのイラク独立調査委員会のことが書かれていて、イギリスの官僚が、「ズブの素人が国家の重要ポストを占めている。訓練が必要なのは大臣連中である」と公聴会で発言したことが紹介されている。

そして、去年の政権交代後、マニフェスト至上主義を掲げて、「政権交代の意味を分かっていないようだな」と官僚たちを脅しては、専門家の意見も遮断した閣僚もいた。当たり

¹ 下記参照

勿凝学問 288 [政治家の言葉——政治家の今昔比較考](#)

² 下記参照

勿凝学問 125 [民主党山本孝史さんと民主党の年金戦略——山本さんのご冥福を祈る](#)

前のことだが、そうした傾向は、野党時代に政局作りにあけくれていて政策に関して自分の考えなど持ち合わせていない者に強く表れていた。イギリスの官僚が言うように、「ズブの素人が国家の重要ポストを占めている」という最悪の状態が起こったのである。まったくもって、「職業としての政治」の時代の弊害である。それにだいたい、あの、彼らがマニフェストと呼ぶ代物を実行可能と思うところが「ズブの素人」以外のなにものでもない。

ただ、今回の普天間問題については、首相の無知、勉強不足というだけで片付けられない話も含まれているように感じられる。今朝の『日経新聞』が指摘しているように、「“国外、県外”と言った時から別の案などなかったのに“腹案がある”と言い張っていたのは明らかだ”。

選挙に勝つために沖縄の人を騙したと思われることは選挙に不利なので、無知であったことを装おうという判断がなされたんだろう。

普通に考えれば、事態がどう展開して行くにしろ、現地の人との信頼関係を築くことができわめて重要なこの案件、政権交代後、まっさきに沖縄を訪れて誠実さを示す行動にでるのが当然だと思う。テレビドラマ「チェンジ」の朝倉総理（木村拓也）なら絶対にそうしていた。。。

今回の件、僕には、選挙に勝つことが、そんなに嬉しいか、それほどまでに手段を選ばぬ卑怯な手段を使ってでも勝ちたかったのか、と言いたくなるような話にも見える——民主主義とはいったい何なのか、これを機能させるためにはいったいどうすればいいのか、これらの問題を、みんなで考えてもらえればと思う。

そして昨日今日の報道をみていて、記憶の片隅にある「チェンジ」の中の神林官房長官（寺尾聰）の言葉をついつい思い出してしまう。

総理は誰にも辞めさせることができない

自分で辞めると言ってもらうまで総理はかえられないんだよ

ちなみに、彼が「腹案」という言葉を使ったのは、3月31日の党首討論の時である。その翌日の4月1日、僕は、自民党政調会の「安心社会研究会」で話をした。その際、出席していた議員から、「民主党の年金案はどう思われますか」と質問があった。僕は、「今の段階で議論できることは、これまでもう十分過ぎるほどに行ってきた。彼ら以上に彼らの案を論評する人たちの方が、はるかに時間をかけてきたと思う。そして、年金論議で本当に詰めなければならない細部の議論は、彼らに早く「腹案」を出してもらわないと何もできない。民主党は、2004年4月に法律案11頁、理由1頁の資料を出して以来6年間、政権交代後半年経っても何も出してこないんだからどうしようもない」と答える。なお、2004

年2月に当時の与党が出した年金改革関連法案は法律案 460 頁、理由 1 頁であった。

とにかく、彼らが選挙を前にして言ってきた甘い話と整合性のある「腹案」があるかのように振る舞って、投票者を騙していくのが彼らの常套手段である。専門情報を取り扱う職業の世界で、こうした職業倫理を無視した人たちが出てきたら、まともな人たちは絶対にはかなわない（笑）。彼らに勝つためには、同じ手段を使うしかないんだよな——どこぞの政党のように。。。

勿凝学問 293 [それは禁じ手なんだが、残念なことにそれが民主党の常套手段——代替案なき批判は、政治の世界でも研究の世界でも百害あって一理なし](#)

さてさて、大きなところで言えば財源問題、普天間問題とボロがでた。次は何かな？

追記——普天間という言葉が出てくる僕の文章。

2010年4月25日のHP

先日学生と飲んでいると、昨年の秋の最初の講義で、「国民の意思、民意ってなんだ？」と学生に聞いて、僕は八ッ場ダムの話をしていたらしい。その話しは次の文章の中にあるね。高速道路料金をめぐる酔狂の中で党が政府に修正を求める際に「国民の意思」という言葉が多用されているから、紹介しておくよ。忖度政治では、意向を押し量る相手が天皇になったり国民になったりするけど、本質は似たり寄ったりだ。

- 講演抄録「[転換期の社会保障・福祉政策](#)」『月刊福祉』増刊号平成 21 年 12 月 15 日号 於 平成 21 年 9 月 28 日（月）開催 「平成 21 年度社会福祉トップセミナー」（主催：全国社会福祉協議会）

八ッ場ダムのことをどう思いますかと聞かれたのですが、八ッ場ダムの選挙区の人たちは、小淵優子さんという自民党の人を圧倒的に支持して当選させたわけですよ。中央集権化を求める政党が、総選挙の結果、八ッ場ダムは否定されたと言うのであればわかるけれども、地方分権を推進すると言いながら、地元の投票者が選択した結果を尊重しないということは論理矛盾を来す。ダムをつくることの是非とは関係なく、八ッ場ダムや普天間の問題などは、民主主義というものを考えさせる非常に重要なきっかけを与えてくれます。

直接民主主義と間接民主主義とは、180度くらい性質が違います。要するに、間接民主主義というものは、いくつかの争点を束にして投票しているにすぎないので。直接民主主義は1回1回やっていきますが、争点の束としてやっていく限り、何を見ていて何を見ていないかということが誰にもわからないのです。

間接民主主義のなかで勝利した政党が、ある政策をピックアップして、私たちのこの政策は支持されたと言ったとしても、「いや、そんなことはない」と誰も否定できません。今さらそんなことは聞いていなかったと言っても、どうしようもないのが間接民主主義なのです。

追記2——政治改革こそが、この国では最も必要という文章

勿凝学問 73 [華麗なる一族によるこの国の改革——インセンティブスキームとしての社会構造の破壊](#)

勿凝学問 72 [「天下り」のほかに「回転ドア」という言葉も知っておこうか——学者は政治家よりはましな生き物なのかもしれない](#)